



# 学校だより

12月号

令和2年11月30日

## 教育をとめてはいけない

副校長 本田 昌彦

いよいよ12月となり、今年も残すところあと1か月となりました。今年には世界中の人々が、新型コロナウイルス感染症に怯え、また対応に苦慮された1年間だったと思います。罹患された方々にお見舞い申し上げるとともに、お亡くなりになられた方々やご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。そして、最前線で対応している医療関係者のすべての皆様には感謝申し上げます。幸いにも二つ橋小学校では、感染者が出ていない状態ではありますが、感染症予防にはこれからも徹底して対応していきますので、各ご家庭においてもご協力をお願いいたします。

学校が再開された6月からを振り返ると、最初は、机の間隔を空けて、みんなが前向きで学習する。給食が始まっても前向きの机で、おしゃべりなく黙って食べる。マスクを外さずにハミングで歌う。多くの制約がある中でも、二つ橋小学校の子どもたちは、しっかりとその約束を守ってきました。とても素晴らしいと心から思います。

その真剣に学習に取り組む姿が、私の記憶の中に残っていたのです。それは、2012年の夏休みのことでした。東日本大震災で被災した宮城県石巻市の小学校に、多くの横浜市の教員が教育支援隊として被災地に向かいました。私自身も参加し、8月に被害の少なかった小学校の教室で「はまっ子ドリル」を教材として、被災した児童たちに勉強を教えました。とても暑い教室ではありましたが、石巻の子どもたちは、おしゃべり一つなく真剣なまなざしで学習に取り組んでいました。心の底から学習することは大切であり、一生懸命学ぼうという気持ちが全身から発せられていたのです。このときの子どもたちの表情と、現在の二つ橋小学校の子どもたちの姿が重なるのです。子どもたちは学べるということが尊いものだと分かっているのかもしれませんが。

子どもたちの内なる学びたいという思いをしっかりと受け止め、「教育をとめてはいけない」という教職員の使命を感じながら、教職員一同、来年もよりよい二つ橋小学校を目指していきます。

マスクをしながらですが、グループ学習の話し合いができています。マスクをしながらの「まっかな秋」の合唱も素晴らしい歌声でした。中休みは多くの子が、校庭を元気に走り回っています。運動会の記念品のタオルを活用した異学年交流も行いました。なくなってしまった相沢小との球技交流会は、形を変えて5・6年生の校内球技交流会として実施しました。制約が多い生活が続いていますが、一步一步、着実にふつうの学校生活に近づいてきています。近い将来、「おはようございます」と言いながら、子どもたちと笑顔でハイタッチすることが楽しみです。

2020年、今年お世話になりましたすべての関係者の皆様には心より感謝申し上げます。そして、2021年が二つ橋小学校に関わるすべての皆様にとって良い年であることを願います。